

ウガンダ の観光資源

平成 21 年 5 月
在ウガンダ日本国大使館

東アフリカの赤道直下に位置し、国土の平均海拔が約 1,200メートルの高地にあるウガンダは、1年を通じて温暖な気候に恵まれています。国土の大部分は緑豊かな丘陵地帯で、アフリカ大陸最大のビクトリア湖とそこから流れるナイル川が国を潤す水と緑の豊かな美しい国です。かつてイギリスのウィンストン・チャーチルはウガンダを「アフリカの真珠」と呼びました。

美しく豊かな自然がウガンダの最大の魅力です。ライオン、象、キリン、シマウマなど多くの野生動物を見られる国立公園が8箇所あり、通常のサファリに加えて、ボートに乗って水辺に集まる動物や水中のかばの群れなどを間近に見られるボート・サファリがユニークな観光資源となっています。また、絶滅の危機に瀕している野生のマウンテン・ゴリラを見られるトレッキング・ツアーは、各国の観光客の人気の的ですが、国連は、2009年を「ゴリラ年」と定め、様々な催しを実施しています。

ビクトリア湖から流れ出すナイル川の始点の街ジンジャでは、小船に乗ってナイルの始点を見ることができ、世界でも有数の急流を経験できるナイル川のラフティングや、ナイル川沿いを散策する乗馬、ナイル河岸の絶壁を利用したバンジー・ジャンプなど数多くの野外スポーツがあります。

ウガンダの東部及び西部はエルゴン山やルウェンゾリ山などのアフリカ大陸有数の高峰がそびえる山岳地帯となっており、麓でのトレッキング、滝や無数のクレーター湖の散策などができます。必要な装備と経験があれば、登山も可能です。ルウェンゾリ山地国立公園と南西部のブウィンディ原生国立公園は、ユネスコの世界自然遺産となっています。

首都カンパラには、独立以前にウガンダ中部を支配していたガンダ王国の歴代の王の墓所「カスビのガンダ王国の王墓群」(ユネスコの世界文化遺産)があり、ここではガンダの伝統的社会習慣についても学ぶことができます。



ナイル河にかかる壮大なマチソン滝



ボートサファリから眺めるバッファローの群れ

[渡航情報](#)